

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 北館 大祐さん（金ヶ崎町）

取材担当 奥州農業改良普及センター 菅原 豊司

令和4年に就農した北館大祐さんを紹介します。

北館さんは、16年間青果卸業等に従事後岩手にUターンし、大規模ピーマン農家での2年間の研修後に「岩手屋ファーム」として独立就農しました。

現在は、施設ピーマン15a、露地ピーマン20aのほか、アスパラガス、ほうれんそうに取り組んでいます。

しっかりと単収を上げ、高品質のピーマンを作り上げるため、土づくりを重視し、鶏糞や牛糞といった堆肥を手散布で1週間かけて行ってきました。コンボキャスターの導入以降は1日で作業ができるようになり、土づくり作業の負担が減ったと評価しています。

また、多くの雇用者に働きやすい環境を提供することに努めており、出勤、退勤、休暇取得も自由としています。農福連携によるパート12名を雇用するなど、地域の雇用確保にもつなげているほか、地域の農業者と共同してロットを確保し、スーパーや業者への地元農産物の供給にも対応しています。

最近では、農作物への鳥獣被害への対応と周辺通学路のクマ出没対策を兼ねて狩猟免許も取得するなど、地域においても積極的に活動しています。

さらにSNSによる情報発信の取組を積極的に行うなど、今後の活躍が期待されます。



大振りで揃いのよいピーマンが自慢



コンボキャスターで土づくり作業が省力化